

11月全校集会

新型コロナウイルス感染防止のため、今日の全校集会も放送で行います。

新型コロナウイルスに翻弄された令和2年ですが、今年も残すところ、後1ヶ月ほどとなりました。皆さんは、今年、最も活躍した人として、誰を挙げるでしょうか。私は、将棋の藤井聡太八段を挙げたいと思います。

彼は、最年少の14歳2カ月でプロ入りし、デビュー戦から29連勝するなど、将棋界の数々の記録を塗り替えてきました。そして、今年、棋聖戦と王位戦を制して史上最年少で二つのタイトルを手にしました。そんな彼の強さの秘密はどこにあるのでしょうか。豊かな発想力、天性の閃き、鋭い読み、情報処理能力の高さ、平常心など、いろいろ言われていますが、その師匠である杉本昌隆八段は二つの理由を挙げています。

皆さんは勝負の場面で、危険を承知であえて踏み込んでいくか、とりあえずすぐには負けない無難な手をとるか、どちらを選びますか。彼はきまって危険を承知であえて踏み込んでいくそうです。「危なそうだ」と怯んだり、「負けたらどうしよう」と恐れたり、「ここはとりあえず安全策をとろう」と消極的になったりせず、杉本昌隆八段の言葉を借りると「ためらわず、邪念を交えず、自分の限界に挑戦する将棋」「決して楽をせず、手を抜かず、とことんまで追求する姿勢」、これが一つ目の理由です。

人はしばしば、負けたり失敗したりした時、ただ落ち込み、ごまかし、言い訳を考え、それを忘れようとしています。逆にうまくいった時には、都合のいいことだけを記憶に残して途中の過ちには蓋をします。実は、将棋では対戦のことを対局と言いますが、対局が終わった後に両者がそれぞれの場面で何を考えたのか、より良い一手があったのかなど、勝因や敗因を分析する感想戦というものを行うそうです。彼はこの感想戦を非常に大切にしており、自分の考えを出し惜しみせず、納得がいくまで対戦相手に問いかけ続け、彼の感想戦は大抵長時間になるそうです。その背景には「悔しいという感情、不屈の精神、諦めの悪さ、一言で言うと負けず嫌い」があると杉本昌隆八段は語っています。これが二つ目の理由です。

楽をせず、手を抜かず、自分の限界に挑戦する姿勢。負けず嫌いに裏打ちされた、熟慮や対話を通して自己を相対化する営み。皆さんにはこの二つが備わっているのでしょうか。この機会に、それこそ、自己を相対化し、見つめ直してください。皆さんがいろいろな意味で、さらに1ランク成長してくれることを期待しています。

最後に、県内でも多くの高校生が新型コロナウイルスに感染しているようです。幸い本校では、一人の感染者も出ていません。皆さん一人一人が自覚し、マスクの着用・手洗い・消毒等、感染予防に努めてくれているお陰だと思っています。引き続き、油断せず、緊張感を持ってこのコロナ禍をともに乗り切っていきましょう。なお、周囲に感染者が出た場合、マスクをしていなかったら濃厚接触者となり、PCR検査を受けなければならないだけでなく、たとえ陰性であっても2週間の自宅待機を強いられます。全員必ずマスクを着用してください。部活動等でやむなくマスクを外す時は、人と人との距離をとってください。お願いします。

以上で、講話を終わります。